

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム		
所在地	札幌市札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成26年3月11日	評価結果市町村受理日	平成26年6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL /index.php?action=kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202808

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にあった生活が送れるように、職員のスキル、サービスの質の向上に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR百合が原駅から徒歩3分程の閑静な住宅街に位置し、周辺には百合が原公園やモエシ沼公園が点在する等、便利さと自然が上手く調和し恵まれた環境にあります。敷地内にはデイサービスが隣接し、それぞれの機能を有効に活用しながら、夏祭りを合同で執り行う等、利用者、職員は交流を図り、協力体制を築いています。平成18年に開設した「和」と「風」の2ユニットは、共に明るく、清潔で快適な共有空間が保たれています。利用者の高齢化と重度化が進み、サービスの質が求められる現状で、職員はケアのスキル向上を目指し日々研鑽に励み、利用者や家族の安心に繋げる支援に努めています。法人本部でも毎年家族アンケートを実施し、思いや意向を汲み取り、運営に活かしています。既に看取りを経験し、終末期の対応では家族や医療関係者等と連携を図りチームで支援し、家族との信頼を深めています。地域住民とは、運営推進会議を始め、町内会行事や事業所主催の夏祭りに相互に参加して交流を図っています。昨年は初めて中学生の訪問を受け、歌にゲームと楽しい時間を過ごし、子供達との触れ合いを満喫しています。職員は、「家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切に、地域と共に笑顔のある生活」の理念を常に意識して、利用者と家族同様の関わりを持ちながら、日々笑顔で過ごせるケアサービスの実践に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、社訓と共に唱和しています	開設時に全職員で独自の理念「家庭的な雰囲気の中でも 尊厳を大切にし 地域と共に笑顔のある生活」を策定し、事業所内に掲示しています。申し送り時に社訓と共に唱和し、職員は、日々のケアを振り返り、理念がケアに反映されているか、職員間で話し合い確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、敬老会には職員の余興を楽しんで頂いています	町内会の夏祭りや敬老会に参加し、職員も余興を披露する等、交流を図っています。事業所主催の夏祭りにも町内会役員に声をかけ、近所の子供達の参加を得ています。向かいの家の庭を拝見しに行ったり、中学生の訪問を受ける等、徐々に交流の輪が広がってきています。	利用者が地域の一員として、より豊かな暮らしを楽しめる様に、児童館や幼稚園、小学校に協力を呼びかけ、ボランティアを積極的に受け入れる等、多様な地域資源と協働し、日常的に交流が図れる様に、継続的な取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会会長の協力と第二包括の協力で介護や認知症に対する理解、支援への働きかけの話を進行しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告を行い、質問、意見を頂いております。	地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、少ないですが家族の参加を得て、定期的に開催し、運営や利用者の状況、行事案内、防災訓練等を議題に話し合い、意見交換が行われています。	運営推進会議の意義を理解して頂き、今一度家族の参加を呼びかけると共に、地域住民のメンバーの拡大も視野に入れた幅広い立場の人が参加する会議として、一層の働きかけを期待します。また、全家族に議事録の配布も期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認や、質問等の連絡をし、以前よりは行政との関わりは多くなった。	行政担当者には、事業所の現状を報告し、利用者の処遇や業務上の相談をする等、助言や指示を仰ぎながら、良好な協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を取り入れ、日々のケアの中で拘束に当たらないか確認しながらケアに当たっています	法人で独自のマニュアルが作成され、全体会議や内部研修にて、身体拘束の弊害について学び、周知徹底を図っています。カンファレンスの中で、声かけや対応が拘束に繋がっていないか、職員同士で話し合い、具体的に確認しています。管理者は、内部研修の年間計画を立て、学ぶ機会として毎月実施する事を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、日々の業務やケアの中で職員同士注意しながら虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を付けている方が現在おります。職員間でも少しずつ理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明、相談疑問に対し、不安の無い様配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は設けているも、利用する方は殆ど無く日常の会話の中でこちらからお聞きしたり家族の言葉に注意をはらっています。	法人本部で定期的に、家族アンケートを実施し、運営に反映させています。家族の来訪時には、話し易い雰囲気作りに務め、意見、要望等を汲み取り、職員間で情報共有しています。遠方の家族には、電話やメールにて利用者の状況を報告しながら、意見、要望の表出に努めています。休刊していたホーム便りも4月から再刊を予定しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、話しを聞くよう努めているが、反映部分では管理者の一存では難しい部分が現状です。	日々の申し送りや毎月の全体会議において、職員間で意見交換が行われ、運営に反映させています。更に定期的に、管理者との個人面談を実施し、意見、要望など聞く機会を設け、働く意欲の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は、資格取得制度を実施し向上を目指す職員の育成に力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社は職員の育成に力を入れており、社員投与、管理者への育成もあり本社での強化研修を開き意識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は殆どありませんが同業知人からの情報や取り組みの方法等、意見交換をする事がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談を行い本人の思いや要望をお聞きし職員全員で周知しご本人との関係づくりに取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも面談し、要望や不安をお聞きしご家族が安心して入所に踏み込めるよう提案し納得頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性、ご家族の負担等考慮し、他の施設利用の提案、情報提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ相手を理解し、馴染みの関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力的な家族は多いが、遠方や疎遠のの家族とは充分な関係づくりを築くのが難しいのが電話では、最近の状況報告等を含め関心を持って頂けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪の受け入れし関係維持の支援に努めています。	重度化が進み、馴染みの人や場所の関係継続が難しい利用者もいます。親族、知人、友人の来訪を受けた時は、お茶を持て成しています。家族の協力のもとに、お盆の墓参りや法事、かかりつけ医の受診、外泊等、馴染みの関係継続に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度の違いや性格の違いで良好な関係を築くのは難しいが職員が介入し重度の方との関わりを保てるよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中お見舞い等で関係性を断ち切らないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、アセスメントを開き希望に添えるよう努め困難な場合は本人本意に生活が出来るよう努めています。	アセスメントを基に、生活歴や家族からの情報を通して利用者への理解を深めています。日々の暮らしの中で利用者に関心を払い、思いや意向の把握に努め、カンファレンスで意見交換を行い、情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの経過は把握できるが、一人ひとりの把握はなかなか難しいと考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状は日々変化がある為、注意深く観ていくよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活中から課題を話し合い計画を作成しています。	3ヶ月毎にモニタリング、アセスメントを行い、利用者、家族、関係者の意向を汲み取りながら、全職員で話し合い、介護支援専門員が中心となり、介護計画を作成しています。見直しは、3ヶ月～6ヶ月とし、状態変化時は随時見直しています。	日々のケアサービスが介護計画に沿っているかが確認し易い書式の整備が望まれます。また、介護計画、ケアサービスの実践、評価の流れに基づいた適切な記録方法の検討も、介護支援専門員が中心となり、全職員で学ぶ事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ってケアを行い、記録をしています。課題や状態の変化があれば計画の見直し行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化には柔軟に対応をしていくよう努めているが、多機能化には、まだまだ遠いと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、三味線のボランティアがあったが現在はなく他のボランティアを探しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に応じ、相談にのって頂ける関係性の確立は来ています。入院等、病院の紹介も適切に行なっていただけています。	協力医による月2回の往診と、協力医療機関の看護師による週1回の訪問で、適切な医療と日々の健康管理に努めています。かかりつけ医への受診は、基本家族対応ですが、困難な場合は職員が支援しています。歯科医は要望により往診対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のアドバイスや、職員からの相談が気軽に出来る信頼関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の協力もあり情報交換は来ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の見解でご家族様と今後の話し合いや、家族の意向を聞きチームケアでの支援に取り組む体制のつくりにも努めています。	重度化や終末期に向けた対応指針を明文化し、入居時に利用者、家族に提示し説明を行い同意を得ています。現在終末期を迎えている利用者について、協力医療機関の医師を交えて、今後の家族への対応や職員との連携、フォローアップ研修等の話し合いを行う予定で、全職員でのチームケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応と医師への連絡対応は来ています。心肺蘇生等の対応が出来る職員の入れ替わりがあった為研修に参加受講の必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行なっている。町内会長の協力の下、地域との協力体制を進めています。	今年度は6月に夜間を想定した訓練と、12月には通報のシミュレーションの訓練を実施しましたが、地域住民の参加協力を得るまでには至っておりません。水、食糧等、災害に備えた備蓄品の充実を更に図っています。	消防署指導のもとで避難訓練を年2回実施し、更に様々な災害を想定した事業所の課題を明らかにしながら、確実な避難誘導が出来る様な対応策や体制作りを期待します。運営推進会議等を利用し、地域住民の具体的な協力が得られる様に、継続的な働きかけを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修や日々の言葉かけに注意を払っています。	接遇マナーを内部研修で学び、日頃からどのような様な対応や言葉かけが最善か職員間で話し合い、意識し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、利用者の気持ちに寄り添った支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で本人の思いや希望を聞き自己決定が出来るように支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の訪問理美容や好みの衣服、マニキュアなどのおしゃれも楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは本人の力量に合わせ行なっています。楽しく食事が取れるよう席の配置や盛り付けの仕方も配慮し対応しています。	利用者の好みや希望を取り入れ、職員がメニューを作成しています。畑で収穫した野菜が食卓に上る事は、楽しみ事の一つとなっています。食事の準備や後片付け等、一人ひとりの持ち得る身体機能を活かしながら、職員と共に作業を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは行なっています。力量に合わせ介助し清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が難しい方が増え自立支援は難しくなっているのが現状ですがサインやリズムをつかみできるだけ汚染がない様努めています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握、記録し、さりげない声かけ、誘導でトイレ排泄に向けた自立支援に取り組んでいます。利用者の状態に応じた下着や衛生用品を使用し、尊厳やプライドに配慮した支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談しながら排便コントロールを行なっています。水分、乳製品を摂って頂き出来る方は適度な運動も取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調に合わせ気持ちよく入浴が出来るよう心がけています。	利用者の希望に添いながら、毎日入浴できる体制を整え、週2～3回を目安に支援しています。入浴を拒む利用者には、無理強いせず声かけやタイミングを図り、雰囲気作りに努め、同姓介助等工夫しています。清拭や足浴で清潔保持にも努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況、本人に合わせ良眠出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類が多く全ての周知は難しい。変更があった場合は変化の確認の習慣はできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	必要とされている喜びを実感できるようその方に合わせて役割が出来るよう心がけ支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを企画し外へ出かける機会を作っています。日々の散歩も希望に添って行なっています。	季節に応じた年間行事計画を立て、(お花見、動物園見学、ランチバイキング、夏祭り、焼肉パーティなど)その企画事に担当者を決め外出支援に取り組んでいます。夏場には日々の散歩を満喫したり、隣接する菜園で野菜を育てて収穫を楽しむなど、戸外で過ごす機会を多く設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は買い物等に出かけ好きなものを買う楽しめが持てる様支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用して頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂く為、装飾の配慮、音には気使いし心地よく過ごして頂けるよう努めています。	各ユニット「和」、「風」は同じ造りとなっています。廊下には季節の飾り付けが施され、日中過ごすことの多いリビング兼ダイニングは明るく、不快な音や臭いも有りません。食卓テーブルや椅子、ソファが適宜に配置されており、6畳の小上がりは洗濯物を干したり、たたむ作業を行うのに丁度良い場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で個々に場所が決まってくる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、置物等を持ち込まれてご本人にとって安心して過ごせる空間になっています。	すべての居室にクローゼットが設置されており、整理整頓し易く、室内を有効に活用されています。家族の協力のもとに、利用者の意向に沿った使い慣れた家具や調度品、生活用品等を持ち込み、一人ひとりの個性が反映され穏やかに、落ち着いて過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、洗濯竿の高さを調整しご自分で掛けられる高さにしています。		